

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人目白学園

(2) 大学名

目白大学短期大学部

(3) 調査対象大学等の位置

〒161-8539

東京都新宿区中落合4-31-1

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オザキ ハルキ) 尾崎 春樹 (平成27年1月)		
学長	(ユタニ スミコ) 油谷 純子 (平成26年4月)		
学部長	該当なし		
学科長等	(タカク サトル) 高久 悟 (平成31年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)
令和2年度に報告する内容 → (2)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合（令和元年度までの5年間）ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
歯科衛生学科 短期大学士 （歯科衛生学）	保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）	3年	60人	— 年次人	180人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	60 () []	—	60 () []	—	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	0.65 倍	— 倍	
志願者数	57 () []	— () []	68 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
受験者数	56 () []	— () []	68 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
合格者数	43 () []	— () []	61 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
B 入学者数	31 () []	— () []	48 () []	— () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []			
入学定員超過率 B/A	0.51		0.8										

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	30 [—] (—)	— [—] (—)	44 [0] 0	— [—] (—)							
2 年次	/		29 [0] 0	— [—] (—)							
3 年次			/								
4 年次	/										
計			30 [—] (—)		73 [0] 0						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
令和元年度	30 人	1 人	令和元年度	1 人	0 人	経済的な理由(1人)
令和2年度	73 人	1 人	令和元年度	1 人	0 人	経済的な理由(1人)
			令和2年度	0 人	0 人	
令和3年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
合 計		2 人		1 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{30} = \boxed{3.33} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{73} = \boxed{1.36} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<歯科衛生学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
科学的思考の基盤	人間と生物	1前	2			1						
	情報演習	1前	1					1				
	保健体育	1前	1									兼1
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	0	1	0	0		兼1
基礎教育科目	ベーシックセミナー	1前	1			4	1	1	3			
	心理学	1前	1									兼2
	英語	1前	1									兼1
	人間と生活	1後	1									兼1
	歯科英語	1後	1									兼1
	生命倫理学	1後	2			1						
	日本語表現	2前	2									兼1
	ビジネスコミュニケーション	2後	2		2							兼2
キャリアデザイン	2後	1			4	1	1	3				
	小計(8科目)	-	6	5	0	9	2	2	6	0		兼7
人体の構造と機能	解剖学・組織発生学	1前	2			1						兼1
	生理学	1前	1			1						
	生化学・栄養学	1前	1									兼1
	小計(3科目)	-	4	0	0	2	0	0	0	0		兼2
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1前	2									兼1
	口腔生理学	1後	2			1						
	口腔生化学	1後	1			1						
	小計(3科目)	-	5	0	0	2	0	0	0	0		兼1
歯の病り立ち及び歯痛の発生	病理学・口腔病理学	1後	2			1						
	微生物学・免疫学	1後	2						1			
	薬理学・歯科薬理学	1後	2									兼1
	小計(3科目)	-	6	0	0	1	0	0	1	0		兼1
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	1前	2			1						
	口腔衛生学Ⅰ	1前	1			1						
	口腔衛生学Ⅱ	1後	1			1						
	保健情報統計学	1後	1			1						
	衛生行政・社会福祉	1後	1			1						
	地域歯科保健活動論	2後	1			1						
	小計(6科目)	-	7	0	0	6	0	0	0	0		0
歯科衛生学総論	1前	2			1							
	小計(1科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0		0

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
科学的思考の基盤	人間と生物	1前	2			1						
	情報演習	1前	1						1			
	保健体育	1前	1									兼2
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	0	1	0	0		兼2
基礎教育科目	ベーシックセミナー	1前	1			4	1	1	3			
	心理学	1前	1									兼2
	英語	1前	1									兼1
	人間と生活	1後	1									兼2
	歯科英語	1後	1									兼2
	生命倫理学	1後	2			1						
	日本語表現	2前	2									兼1
	ビジネスコミュニケーション	2後	2		2							兼2
キャリアデザイン	2後	1			4	1	1	3				
	小計(8科目)	-	6	5	0	9	2	2	6	0		兼8
人体の構造と機能	解剖学・組織発生学	1前	2			1						兼1
	生理学	1前	1			1						
	生化学・栄養学	1前	1									兼1
	小計(3科目)	-	4	0	0	2	0	0	0	0		兼2
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学	1前	2									兼2
	口腔生理学	1後	2			1						
	口腔生化学	1後	1			1						
	小計(3科目)	-	5	0	0	2	0	0	0	0		兼2
歯の病り立ち及び歯痛の発生	病理学・口腔病理学	1後	2			1						
	微生物学・免疫学	1後	2						1			
	薬理学・歯科薬理学	1後	2									兼1
	小計(3科目)	-	6	0	0	1	0	0	1	0		兼1
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	1前	2			1						
	口腔衛生学Ⅰ	1前	1			1						
	口腔衛生学Ⅱ	1後	1			1						
	保健情報統計学	1後	1			1						
	衛生行政・社会福祉	1後	1			1						
	地域歯科保健活動論	2後	1			1						
	小計(6科目)	-	7	0	0	6	0	0	0	0		0
歯科衛生学総論	1前	2			1							
	小計(1科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0		0

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目	臨床歯科総論	1後	1			1						
	歯科放射線学	2前	1			1						
	保存修復学・歯内療法学	2前	2			1						
	歯周病学	2前	2									兼1
	臨床歯科医学 歯科補綴学	2前	1			1						
	口腔外科学	2前	2			1						
	歯科矯正学	2前	2									兼1
	小児歯科学	2前	2			1						
	高齢者・障害者歯科学	2前	2			1						
	口腔機能リハビリテーション学	2後	1									兼1
小計(10科目)	-	16	0	0	7	0	0	0	0	0	兼3	
専門科目	歯科予防処置論	1前	2			1	1		1			
	歯科予防処置演習	1前	1			1	1		1			
	歯科予防処置実習Ⅰ	1後	2			1	1		1			
	歯科予防処置実習Ⅱ	2前	2			1	1		1			
	総合歯科予防処置論	3後	1			1	1		1			
	小計(5科目)	-	8	0	0	5	5	0	5	0	0	
専門科目	歯科保健指導Ⅰ	1前	2			1		1	1			
	歯科保健指導実習Ⅰ	1後	1			1		1	1			
	歯科保健指導Ⅱ	2前	2			1		1	1			
	歯科保健指導実習Ⅱ	2前	1			1		1	1			
	総合歯科保健指導論	3後	1			1		1	1			
	小計(5科目)	-	7	0	0	5	0	5	5	0	0	
専門科目	歯科診療補助Ⅰ	1後	2			2			1			
	歯科診療補助実習Ⅰ	1後	2			2			1			
	歯科診療補助Ⅱ	2前	2			2			1			兼1
	歯科診療補助実習Ⅱ	2前	2			2			1			
	総合歯科診療補助論	3後	1			2			1			
	小計(5科目)	-	9	0	0	10	0	0	5	0	0	兼1
専門科目	臨床・臨地実習Ⅰ	2後	9			2	1	1	3			
	臨床・臨地実習Ⅱ	3前	9			2	1	1	3			
	臨床・臨地実習Ⅲ	3後	2			3	1	1	3			
	小計(3科目)	-	20	0	0	7	3	3	9	0	0	
専門発展科目	医療コミュニケーション学	2前	1			1						兼2
	在宅歯科衛生管理論	3前		1		2						
	医療福祉連携活動論	3後	1			1						兼6
	歯科衛生セミナー	3通		2		5						
	小計(4科目)	-	2	3	0	9	0	0	0	0	0	兼8
合計(59科目)	-	96	8	0	6	1	2	3	0	0	兼22	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件：103単位 基礎教育科目：必修10単位 専門教育科目：必修86単位 基礎教育科目と専門教育科目から選択必修7単位												
その他： ・履修科目の登録上限は半期28単位とする。												

科目区分	授業科目の名称	記 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門教育科目	臨床歯科総論	1後	1			1						
	歯科放射線学	2前	1			1						
	保存修復学・歯内療法学	2前	2			1						
	歯周病学	2前	2									兼1
	臨床歯科医学 歯科補綴学	2前	1			1						
	口腔外科学	2前	2			1						
	歯科矯正学	2前	2									兼1
	小児歯科学	2前	2			1						
	高齢者・障害者歯科学	2前	2			1						
	口腔機能リハビリテーション学	2後	1									兼1
小計(10科目)	-	16	0	0	7	0	0	0	0	0	兼3	
専門科目	歯科予防処置論	1前	2			1	1		1			
	歯科予防処置演習	1前	1			1	1		1			
	歯科予防処置実習Ⅰ	1後	2			1	1		1			
	歯科予防処置実習Ⅱ	2前	2			1	1		1			
	総合歯科予防処置論	3後	1			1	1		1			
	小計(5科目)	-	8	0	0	5	5	0	5	0	0	
専門科目	歯科保健指導Ⅰ	1前	2			1		1	1			
	歯科保健指導実習Ⅰ	1後	1			1		1	1			
	歯科保健指導Ⅱ	2前	2			1		1	1			
	歯科保健指導実習Ⅱ	2前	1			1		1	1			
	総合歯科保健指導論	3後	1			1		1	1			
	小計(5科目)	-	7	0	0	5	0	5	5	0	0	
専門科目	歯科診療補助Ⅰ	1後	2			2			1			
	歯科診療補助実習Ⅰ	1後	2			2			1			
	歯科診療補助Ⅱ	2前	2			2			1			兼1
	歯科診療補助実習Ⅱ	2前	2			2			1			
	総合歯科診療補助論	3後	1			2			1			
	小計(5科目)	-	9	0	0	10	0	0	5	0	0	兼1
専門科目	臨床・臨地実習Ⅰ	2後	9			2	1	1	3			
	臨床・臨地実習Ⅱ	3前	9			2	1	1	3			
	臨床・臨地実習Ⅲ	3後	2			3	1	1	3			
	小計(3科目)	-	20	0	0	7	3	3	9	0	0	
専門発展科目	医療コミュニケーション学	2前	1			1						兼2
	在宅歯科衛生管理論	3前		1		2						
	医療福祉連携活動論	3後	1			1						兼6
	歯科衛生セミナー	3通		2		5						
	小計(4科目)	-	2	3	0	9	0	0	0	0	0	兼8
合計(59科目)	-	96	8	0	6	1	2	3	0	0	兼25	
卒業要件及び履修方法												
卒業要件：103単位 基礎教育科目：必修10単位 専門教育科目：必修86単位 基礎教育科目と専門教育科目から選択必修7単位												
その他： ・履修科目の登録上限は半期28単位とする。												

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	記当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	科学的思考の基礎	人間と生物	1前	2			1						兼2
		情報演習	1前	1					1				
		保健体育	1前	1									
		小計(3科目)	-	4	0	0	1	0	1	0	0	0	
	人間と生活	ベーシックセミナー	1前	1			4	1	1	3			兼2 兼1 兼1 兼2
		心理学	1前		1								
		英語	1前		1								
		歯科英語	1後	1				1					
		生命倫理学	1後	2				1					
		日本語表現	2前	2									
ビジネスコミュニケーション		2後		2									
キャリアデザイン	2後		1		4	1	1	3					
小計(8科目)	-	6	5	0	9	2	2	6	0	0	兼7		
専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖学・組織発生学	1前	2			1					兼1 兼1 兼2	
		生理学	1前	1			1						
		生化学・栄養学	1前	1									
		小計(3科目)	-	4	0	0	2	0	0	0	0		兼2
	口腔の構造と機能	口腔解剖学	1前	2								兼2	
		口腔生理学	1後	2			1						
		口腔生化学	1後	1			1						
		小計(3科目)	-	5	0	0	2	0	0	0	0		兼2
	歯の構造と機能	病理学・口腔病理学	1後	2			1					兼4	
		微生物学・免疫学	1後	2					1				
薬理学・歯科薬理学		1後	2										
小計(3科目)		-	6	0	0	1	0	0	1	0	兼4		
歯の口腔の構造と機能に関する人間と社会の仕組み	衛生学・公衆衛生学	1前	2			1					兼5		
	口腔衛生学Ⅰ	1前	1			1							
	口腔衛生学Ⅱ	1後	1			1							
	保健情報統計学	1後	1			1							
	衛生行政・社会福祉	1後	1			1							
	地域歯科保健活動論	2後	1			1							
	小計(6科目)	-	7	0	0	6	0	0	0	0		0	
	歯科衛生学総論	1前	2			1							
小計(1科目)	-	2	0	0	1	0	0	0	0	0			
臨床歯科学	臨床歯科総論	1後	1			1					兼1 兼1 兼5		
	歯科放射線学	2前	1			1							
	保存修復学・歯内療法	2前	2			1							
	歯周病学	2前	2										
	歯科補綴学	2前	1			1							
	口腔外科学	2前	2			1							
	歯科矯正学	2前	2										
	小児歯科学	2前	2			1							
	高齢者・障害者歯科学	2前	2			1							
	口腔機能リハビリテーション学	2後	1										
小計(10科目)	-	16	0	0	7	0	0	0	0	0	兼7		
専門科目	歯科予防処置論	1前	2			1	1		1		兼5		
	歯科予防処置演習	1前	1			1	1		1				
	歯科予防処置実習Ⅰ	1後	2			1	1		1				
	歯科予防処置実習Ⅱ	2前	2			1	1		1				
	総合歯科予防処置論	3後	1			1	1		1				
	小計(5科目)	-	8	0	0	5	5	0	5	0		0	
歯科保健指導論Ⅰ	1前	2			1		1	1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
歯科保健指導	歯科保健指導実習Ⅰ	1後	1			1		1	1				
	歯科保健指導論Ⅱ	2前	2			1		1	1				
	歯科保健指導実習Ⅱ	2前	1			1		1	1				
	総合歯科保健指導論	3後	1			1		1	1				
	小計(5科目)	-	7	0	0	5	0	5	5	0	0		
	歯科診療補助	歯科診療補助論Ⅰ	1後	2			2			1			
		歯科診療補助実習Ⅰ	1後	2			2			1			
		歯科診療補助論Ⅱ	2前	2			2			1		兼1	
		歯科診療補助実習Ⅱ	2前	2			2			1		兼1	
		総合歯科診療補助論	3後	1			2			1			
	小計(5科目)	-	9	0	0	10	0	0	5	0	兼2		
	臨床実習	臨床・臨床実習Ⅰ	2後	9			2	1	1	3			
		臨床・臨床実習Ⅱ	3前	9			2	1	1	3			
臨床・臨床実習Ⅲ		3後	2			3	1	1	3				
小計(3科目)	-	20	0	0	7	3	3	9	0	0			
専門発展科目	医療コミュニケーション学	2前	1			1						兼2	
	在宅歯科衛生管理論	3前		1		2							
	医療福祉連携活動論	3後	1			1						兼6	
	歯科衛生セミナー	3通		2		5							
小計(4科目)	-	2	3	0	9	0	0	0	0	0	兼8		
合計(59科目)	-	96	8	0	6	1	2	3	0	兼32			

卒業要件及び履修方法

卒業要件：103単位
基礎教育科目：必修10単位
専門教育科目：必修86単位
基礎教育科目と専門教育科目から選択必修7単位

その他：
履修科目の登録上限は半期28単位とする。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・ 教育課程の充実を図るために、「歯科英語」の専任教員等の配置を「兼任・兼任2」から「兼任・兼任1」に変更。
- ・ 教育課程の充実を図るために、「薬理学・歯科薬理学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任4」に変更。
- ・ 教育課程の充実を図るために、「口腔機能リハビリテーション学」の専任教員等の配置を「兼任・兼任1」から「兼任・兼任5」に変更。
- ・ 教育課程の充実を図るために、「歯科診療補助実習Ⅱ」の専任教員等の配置について「兼任・兼任1」を追加。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
53 科目	6 科目	0 科目	59 科目	53 科目 [0]	6 科目 [0]	0 科目 [0]	59 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{59} = \boxed{0}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	目白大学と共用 目白研心中学校(収容300人) 目白研心高等学校(収容780人) <校地設置基準> なし <運動場設置基準> 中学 4,600㎡ 高校 8,400㎡ 計13,000㎡ <校舎設置基準> 中学 2,400㎡ 高校 4,400㎡ 計6,800㎡ 借地面積 1,884.66㎡			
	校舎敷地	0.00㎡	23,095.99㎡	63,800.16㎡	86,896.15㎡				
	運動場用地	0.00㎡	13,351.00㎡	13,800.00㎡	27,151.00㎡				
	小 計	0.00㎡	36,446.99㎡	77,600.16㎡	114,047.15㎡				
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	1,877.06㎡	1,877.06㎡				
	合 計	0.00㎡	36,446.99㎡	79,477.22㎡	115,924.21㎡				
(2) 校舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	目白大学と共有 本館4階を拡大フロアに改修および中高倉庫を解体(2) 心理学部設置のため、カウンセリング室としていた部分を大学校舎として整備するため(元)			
		4197.9㎡ 3,443.19㎡ (3,443.19㎡)	41644.36㎡ 42,666.94㎡ 41,961.86㎡ (37,626.00㎡)	37201.69㎡ 37,382.32㎡ (37,382.32㎡)	83043.95㎡ 83,492.45㎡ (83,492.45㎡)				
(3) 教室等	講義室	94 85 81室	演習室 43室	実験実習室 61 57室	情報処理学習施設 15 16室 (補助職員 人)	語学学習施設 2室 (補助職員 人)	目白大学と共有 新校舎との接続のため通路等に改修(2) 校舎の一部(8号館)の建て替えに伴い講義室・実験実習室が増加、旧校舎解体のため情報処理学習施設が減少(元)		
	専任教員研究室	新設学部等の名称 歯科衛生学科		室 数 8 9 8 室		1部同室となったため(2) 補正申請に伴い専任教員(教授)を新たに採用したため(元)			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	目白大学と共有	
	歯科衛生学科	394,500 [35,300] (382,074 [35,152])	1,400 [400] (1,540 [413])	200 [190] (200 [190])	13,000 (12,552)	0 (0)	0 (0)		
	計	394,500 [35,300] (382,074 [35,152])	1,400 [400] (1,540 [413])	200 [190] (200 [190])	13,000 (12,552)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図書館	面 積	4,393.13㎡		閲覧座席数	708	収納可能冊数	300,000	目白大学と共有	
	(7) 体育館	面 積	4,636.70㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要	テニスコート —			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	令和2年4月入学生より 授業料改訂(2)
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	486千円	240千円	240千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	設備購入費	117,402千円	1,000千円	1,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次 1,470千円 1,476千円	第2年次 1,200千円	第3年次 1,200千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要	経常費補助金、資産運用収入、付随事業収入 等							

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	目白大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
心理学部											
心理カウンセリング学科	4	125	—	500	学士 (心理学)	1.07	1.07	—	令和2	東京都新宿区中落 合 4丁目31番1号	
人間学部											
心理カウンセリング学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成12	同上	令和2年学生募集停止
人間福祉学科	4	100	3年次 10	420	学士 (人間福祉学)	1.07	0.97	—	平成16	同上	平成29年度定員変更(△20)
子ども学科	4	140	3年次 10	580	学士 (子ども学)	0.99	1.02	—	平成19	同上	
児童教育学科	4	50	—	200	学士 (児童教育学)	1.06	0.92	—	平成21	同上	
社会学部											
社会情報学科	4	120	3年次 5	490	学士 (社会情報学)	1.04	0.99	—	平成12	同上	
メディア表現学科	4	—	—	—	学士 (社会科学)	—	—	—	平成12	同上	平成30年学生募集停止
地域社会学科	4	80	3年次 5	330	学士 (地域社会学)	1.05	1.05	—	平成18	同上	
メディア学部											
メディア学科	4	140	—	280	学士 (メディア学)	1.04	1.08	—	平成30	同上	
経営学部											
経営学科	4	130	3年次 5	530	学士 (経営学)	0.96	0.99	—	平成14	同上	平成29年度定員変更(10)
外国語学部											
英米語学科	4	80	3年次 5	330	学士 (英米語)	1.07	1.00	—	平成17	同上	
中国語学科	4	40	—	160	学士 (中国語)	1.03	1.20	—	平成20	同上	
韓国語学科	4	60	—	240	学士(韓国語) 学士(韓国語教育)	1.08	1.05	—	平成20	同上	
日本語・日本語教育学科	4	40	—	160	学士(日本語) 学士(日本語教育)	1.05	1.32	—	平成20	同上	
保健医療学部											
理学療法学科	4	85	—	340	学士 (理学療法学)	1.05	1.00	—	平成17	埼玉県さいたま市 岩槻区浮谷320番地	平成29年度定員変更(5)
作業療法学科	4	60	—	240	学士 (作業療法学)	0.86	0.81	—	平成17	同上	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	0.81	0.90	—	平成18	同上	
看護学部											
看護学科	4	105	—	420	学士 (看護学)	1.10	0.99	—	平成18	同上	平成29年度定員変更(5)
大学全体	—	1395	40	5380	—	—	—	—	—	—	
大学の名称	目白大学 大学院										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	

大学等の名称	年	人	年次 人	人		倍	倍				
国際交流研究科											
国際交流専攻	2	20	—	40	修士 (国際学)	0.32	0.25	—	平成11	東京都新宿区中落 合 4丁目31番1号	
心理学研究科											
現代心理学専攻	2	20	—	40	修士 (心理学)	0.20	0.20	—	平成20	同上	
臨床心理学専攻	2	30	—	60	修士 (心理学)	0.33	0.43	—	平成14	同上	
心理学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (心理学)	0.11	0	—	平成16	同上	
経営学研究科											
経営学専攻	2	20	—	40	修士 (経営学)	0.15	0.05	—	平成16	同上	
経営学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (経営学)	0.11	0	—	平成21	同上	
生涯福祉研究科											
生涯福祉専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉学) 修士(保育学)	0.02	0.05	—	平成19	同上	
言語文化研究科											
英語・英語教育専攻	2	10	—	20	修士 (英語学)	0	0	—	平成20	同上	
日本語・日本語教育専攻	2	10	—	20	修士 (日本語学)	0.50	0.50	—	平成20	同上	
中国・韓国言語文化専攻	2	10	—	20	修士(中国言語文化) 修士(韓国言語文化)	0.25	0.10	—	平成20	同上	
看護学研究科											
看護学専攻	2	15	—	30	修士 (看護学)	0.16	0.06	—	平成21	埼玉県和光市諏訪 2丁目12番地	
リハビリテーション学研究科											
リハビリテーション学専攻	2	15	—	30	修士 (リハビリテーション学)	0.23	0.06	—	平成24	東京都新宿区中落 合 4丁目31番1号	
大学全体	—	176	—	358	—	—	—	—	—	—	
大学の名称	目 白 大 学 短 期 大 学 部										備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍				
生活科学科	2	—	—	—	短期大学士 (生活科学)	—	—	—	昭和39	東京都新宿区中落 合 4丁目31番1号	平成31年学生募集停止
製菓学科	2	55	—	110	短期大学士 (生活科学)	1.08	1.00	—	平成19	同上	平成30年度定員変更(△10) 平成31年度定員変更(△15)
ビジネス社会学科	2	75	—	150	短期大学士 (社会経済)	1.11	1.26	—	平成22	同上	平成30年度定員変更(△10)
歯科衛生学科	3	60	—	120	短期大学士 (歯科衛生学)	0.61	0.73	—	令和元	同上	
大学全体	—	190	—	380	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。

- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況	今後の の実施計画	
認 可 時 (平成30年)	<p>・既設大学の看護学部とは一部講義科目での限定的な連携となっているため、さらに充実させるとともに、実習科目でも連携することが望ましい。</p>	助言事項	<p>認可時のカリキュラムどおり、既設大学の看護学部教員は、「歯科診療補助論Ⅱ」で救急医療における医療・看護の実際と患者・家族へのかかわり方、「医療コミュニケーション学」で急性期医療におけるコミュニケーションについての講義を担当する。 さらに教育内容を充実させるために検討した結果、所在地を同じくする既設大学人間学部と連携、看護師資格を有する教員が、2年次前期の実習科目「歯科診療補助実習Ⅱ」の中で、急性期医療において理解が必要な吸引や経管栄養等に関する基礎的な実習を担当することとなった。【添付資料①】</p>	履行中	<p>実施した授業科目の担当教員及び連携学科、担当コマ数、学生成績（GPA）、単位修得率等をカリキュラムマップ（【添付資料②】）を用いて可視化するとともに、授業評価アンケート結果も用いてカリキュラムの総合的な評価を行う。多職種連携のなかで、歯科衛生士としての専門性を生かした協働のできる知識と技術の修得が期待される。評価結果に基づいて講義科目・実習科目ともに、既設大学看護学部教員のほか、保健医療学部、人間学部（現心理学部を含む）及び短期大学部他学科教員とより教育効果の高い連携方法について検討し、改善を図る。</p>
認 可 時 (平成30年)	<p>・高頻度治療としての保存修復、補綴、歯周病の分野の教員負担軽減の観点から、将来的には当該分野の教員を補充することが望ましい。</p>	助言事項	<p>開設二年目となる今年度も、引き続き専任教員については、時間割作成時の配慮や共同授業の活用によって、負担が過度にならないように工夫した。 したがって、今年度の学科人事計画においても、教育負担軽減を意図した教員補充は予定していない。</p>	履行中	<p>年度ごとに実施したカリキュラムに関して授業科目担当コマ数、学生の成績（GPA）、単位修得率等の評価を行うため、高頻度治療の各分野における教員の負担、及び教育効果への影響面は特に考慮している。 評価の結果、あるいは専門性や教育効果、年齢構成等の諸条件に基づいて、完成年度以降の教育課程にも係る学科人事計画に反映する。より専門性の高い教員の指導による教育効果の向上を図る。</p>
認 可 時 (平成30年)	<p>・「卒業後も歯科衛生士として生涯にわたって学び進化し続ける力」を身に付けさせる観点から、卒業教育の充実に取り組むことが望ましい。</p>	助言事項	<p>卒業生を主対象としたリカレント講座等の実施に取り組む。また、在学生に対しても、卒業後に学ぶ機会の情報を取得する方法を教育している。 学び続ける力を学習成果とする1年次配当「ベリックセミナー」においては引き続き、時間管理や学習習慣などの基礎的な自己管理能力を身につけさせる。2年次配当「キャリアデザイン」では、生涯学習の必要性や、全国や地域の歯科衛生士会が主催する研修会や、機関紙等の案内、本学や他の教育機関が実施している公開講座等の情報を取得する方法について教育する。</p>	履行中	<p>1期生が卒業となる令和4年3月以降にリカレント講座等を開講できるよう、令和2年度中に実施計画を立案する。具体的には、学科会議において、本学が実施している公開講座との同時開催や、地域の歯科衛生士も参加できる研修会等の形態と、卒業生の多くが参加可能となる実施時期を検討する。実施の時期や形態が合意できた時点で教授会に諮り、進めていく予定である。</p>

<p>認可時 (平成30年)</p>	<p>・急性期医療教育を充実させる観点から、歯科医療分野のみならず医科分野の急性期医療に関して、当該分野を専門とする教員の参画により教育内容を充実させること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>急性期医療教育を充実させるため、2年次前期配当の講義科目「高齢者・障害者歯科学」において、医科分野の急性期医療の特徴、医科歯科連携の必要性、歯科衛生士に求められる役割、対応時の留意点等について教育することとした。 これに併せて医科分野の急性期医療に関して、教育経験を有する専門医を非常勤講師として採用した。令和2年度前期より急性期医療の現状及び医学・医療の進歩と癌治療に関する講義を担当する。救急医療及び癌治療の現状とそこに関わるチーム医療について学ぶことは急性期医療のチームに歯科衛生士が加わるうえで不可欠なことから、当該分野の教育に厚みを加えることができた。【添付資料③】</p>	<p>履行済</p>	
<p>認可時 (平成30年)</p>	<p>・実習施設の質を確保する観点から、実習指導者には実務経験年数のみならず臨床教育を担当できる資質・能力を有していることや、歯科医院については「歯科外来診療環境体制加算に関する施設基準」を満たしているなど、医療安全が確保されていることをガイドライン等で明確にして実習施設の確保を行うとともに、実習指導者の教育の質の向上のためFDの充実に取り組むこと。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>実習施設の質を確保する観点から、明確にすべき、実習施設の具体的な条件（実習指導者の状況、医療安全体制等）を纏めた「目白大学短期大学部歯科衛生学科 歯科医院実習施設選定ガイドライン」を制定した。【添付資料④】 これを受けて、本学の実習について承諾書を提出済の歯科医院を対象に「臨床・臨地実習に関わるアンケート調査」を実施、実習指導者や医療安全体制等がガイドラインの条件を満たすかを再度確認した。 調査結果を踏まえ、「目白大学短期大学部歯科衛生学科 歯科医院実習施設選定ガイドライン」で示した諸条件をすべて満たした実習施設を選定し、令和2年度の実習で使用する実習施設（【添付資料⑤】）には、令和元年度中に実習を依頼した。</p>	<p>履行中</p>	<p>FDの充実の一環として、実習を依頼する実習施設の実習指導者には、臨地実習開始前に「臨地実習指導者会議」を開催し、実習目標や指導内容、評価方法について共通理解をもって実習指導を行えるようにする。 現在「臨床・臨地実習委員会」において9月頃に開催することで実習施設と調整を進めている。また、令和3年度から実習を依頼する施設については、実習施設訪問及び選定を今年度内に行う予定である。</p>

<p>認可時 (平成30年)</p>	<p>・学生の卒業後のキャリアパスの充実や大学院等への進学を検討に資するため、歯科衛生分野を中心に情報提供を充実することが望ましい。</p>	<p>助言事項</p>	<p>本学キャリアセンターにおいて、就職関連のガイダンス等のプログラムを用意している。学生はプログラムに参加し、就職活動に際しての心構えや履歴書作成講座、面接練習などを受講する。 また、進学希望の学生の存在を踏まえ、歯科衛生分野の4年制大学編入試験や専攻科入学試験の情報等について、学生に適時情報提供を行うこととする。 これらの取り組みを、今年度は特に2年次生各クラス担任と就職・キャリア委員が連携して実施する。</p>	<p>履行中</p>	<p>2年次科目「キャリアデザイン」において、歯科衛生分野を中心に、歯科診療所や病院以外で歯科衛生士の活躍が期待される多様な進路に関する情報を提供する。ダブルライセンスの事例や教育・研究の選択肢も紹介する。各クラス担任及び専任教員はオフィスアワー等で学生の個別相談に細やかに対応し、在学中を通して学生の就職および進学を支援する。 また、キャリアセンターの支援内容及び卒業後の利用についても学生に周知する。</p>
<p>認可時 (平成30年)</p>	<p>・理事会が書面での持ち回りで行われていたことから、集会の形式により行うこと。</p>	<p>助言事項</p>	<p>平成30年6月5日～13日に行われた持ち回り理事会は、同年3月末日に認可申請を行った内容に対し、大学設置分科会より付された審査意見（5月29日付）に対応し、学則の一部改正及びその審議を6月27日の補正申請に反映させるため、急遽開催したものである。 定例の理事会は年度毎に10回程度、集会の形式で開催されており、集会が時間的に困難である場合に、限られた審議のみを扱う臨時のものを除き、今後も持ち回り理事会は発生しない。（令和元年度履行済）</p>	<p>履行済</p>	
<p>設置計画履行状況調査時 (令和元年)</p>	<p>・入学定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p>	<p>令和元年度は、オープンキャンパス全6回のほか、短期大学部スペシャルセミナー、高校1・2年生対象イベント、高校訪問、公開講座の実施、高校生向けの学科新聞の発行等、これまで行っていなかった新たな施策も加えながら入試広報活動に尽力した。その結果、令和2年度入学生は昨年度対比で1.47倍（入学定員超過率0.8）となったが、入学定員の充足までには至らなかった。今年度は、歯科衛生学科専属の募集スタッフを配置し、対象高校とのより深い関係構築を図りながら、受験生への認知向上とアプローチを進める。</p>	<p>履行中</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大を受け、令和2年度4月～7月のオープンキャンパスは中止となった。 当面は本学Webサイトや郵送物を活用した広報活動を推進する。Webサイトでは、学科に関する情報の更新頻度を増やし、受験対象者層の興味促進を図る。 積極的な募集活動を再開できる目途がついた時点で、全学的な活動（入試広報部）と連携し、完成年度を入学定員充足で迎えられよう努める。</p>

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。

その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。

- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<目白大学短期大学部 歯科衛生学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
	<p>令和二年度は、国内外における新型コロナウイルス感染の拡大及び緊急事態宣言の発出といった状況に鑑み、感染拡大防止の観点並びに在学生の安全を考慮し、当初予定していた学年歴を大幅に変更した。</p> <p><主な変更内容は以下のとおり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式やオリエンテーション等、全集会行事の中止 ・前期の授業開始を5月11日(月)～に変更 ・前期の授業を全て遠隔授業とした(キャンパスは当面閉鎖) <p>このような環境下においても、設置計画で示した教育効果にマイナスの影響が生じることのないよう特段の配慮を行うこととしている。一方で、既に今年度の実習受入れが困難との申し出のあった施設もあり、今後の推移を見ながらではあるが、特に今年度は(2年次後期より開始予定の)実習科目において、学生に不利益が生じないように調整を図る。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目白大学短期大学部各種委員会規程」に基づき、短期大学部特命学長補佐を委員長とするFD実施委員会を設置している。【添付資料⑥】 <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度は6月26日(水)に「第1回FD実施委員会」を実施し、8割以上の構成員が参加した。令和2年度も同様の開催を予定している。 (新型コロナウイルス感染症の関係で遠隔開催、あるいは延期の可能性もある) <p>c 委員会の審議事項等</p> <p><令和元年度実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2019年度全学FD研修会実施計画について ・2019年度「FD活動実施報告書」について ・2019年度「FD活動実施計画書」について <p>令和2年度も同様の内容を予定している。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p><令和元年度実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月18日(水)全学FD研修会・第1回 「コンプライアンス教育・研究倫理教育」の説明会 ・11月30日(土)全学FD研修会・第2回 「学習者の多様性とこれからの大学～障がい学生の支援と今後の大学の在り方～」 「目白大学・目白大学短期大学部の取り組みと各キャンパスの現状」 シンポジウム「多様性と大学における学修の支援に向けて」 ・9月2日(水) 短期大学部研究交流会「認証評価について」(埼玉純真短期大学学長) ・2019年8月～2020年2月 短期大学部研究発表会 ・授業参観

- ・その他学科独自の授業内容・方法を改善し向上させるための取り組み

b 実施方法

- ・大学両キャンパスと合同で「全学FD研修会」を年2回実施するとともに、短期大学部独自の活動として年間2回の授業参観、さまざまな課題や旬なテーマを勉強会形式で扱う研究交流会、研究成果を発表し合う研究発表会を開催している。

これとは別に、学科単位でのFD研修会を年1回以上開催し、歯科衛生学科は「学生の個性を伸ばす効果的な学習支援」として、実施報告書を教務部研究支援課に提出した。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

<令和元年度実績>

- ・令和元年度第1回全学FD研修会（2019年9月18日（木）開催）
教員243名、うち短期大学部教員29名参加、歯科衛生学科13名（92.9%）
- ・令和元年度第2回全学FD研修会（2019年12月18日（土）開催）
教員189名、うち短期大学部教員28名参加、歯科衛生学科14名（100%）
- ・その他、短期大学部独自の活動及び学科単位でのFD活動には、原則として所属教員全員が参加する。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・各FD研修会で取り上げた内容、授業参観のフィードバック、及び下記授業評価アンケート結果に基づき、各教員は授業の改善や教育技術の向上に役立てている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・「学生による授業評価」実施要領に基づき、期間・対象を定めて実施している。
- ・実習等を除く全ての授業において、2年間のうち最低1回は学期末に実施することを原則としている。

b 教員や学生への公開状況、方法等

- ・集計結果は、教務部教務課より各教員及び当該学科長（学科長にあつては学長）にフィードバックされる。
- ・短期大学部では、授業評価結果を図書館で公開しており、教員や学生にも閲覧可能となっている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

(該当なし。)

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり。)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・「令和元年(2019)度 自己点検・評価報告書」を令和2年7月末に公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定 (令和2年7月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

- ・令和3年度に評価機関(一般財団法人短期大学基準協会)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和2年度)

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表(予定)時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

別紙) 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

目白大学短期大学部は、口腔衛生の専門職に求められる専門的な知識・技術の習得を通して、科学的な判断力や実務能力を有する有意な人材を養成し、歯科衛生学および歯科口腔科学に関する教育研究を行う目的で、歯科衛生学科を2019年4月に開設し、2年目を迎えた。学科の目的を達成するために、これまでに以下の取り組みを行った。

1. 入学者の確保

学科紹介ホームページ、オープンキャンパス、学科紹介パンフレットなどを通して、歯科衛生学科の教育内容及びアドミッション・ポリシーなどの説明を行った。また、在学生の母校(高等学校)を訪問して入試広報活動を行った。

2019年度は推薦入試の受験者を狙い通り獲得することができなかったことから、2020年度入試においては、評定平均値、短期大学部他学科への入学実績、学生の通学経路などの分析から指定校の見直しを行った。その結果、指定校受験者は前年度の5人より13人に増加、学科の総志願者数は68人、入学許可者58人、入学者数は44人(入学許可時)となった。今後、入学辞退者への分析および対策が必要である。

入学者確保は、2021年度入試においては設置認可申請時に「学生の確保の見直し等を記載した書類」で述べた通り計画的に学生募集活動を実施し、オープンキャンパスの充実、動画やバーチャルWebキャンパスツアーなどビジュアルなホームページの作成、高校訪問等の広報活動の拡大と、短期大学部入試日程の見直しを行った。

2. 入学前教育

本学の合格者には、入学前に基礎学力強化のためのe-ラーニング学習プログラム(通称:メジプロ)の受講を全員に義務づけており、歯科衛生学科では、国語、数学、英語を必修としている。学習プログラムには、ベーシックコースのほか、ステップアップコースも用意されており、入学後も後述の「ベーシックセミナー」において履修状況をチェックしている。また、AO入試および推薦入試による入学予定者を対象に、2月にフォローアップセミナー(入学前ミーティング)を学内で実施し、入学予定者の顔合わせ、新学期の行事の告知、入学後の学びについての説明を行った。

3. 新入生オリエンテーション

4月1日に入学式、4月3日に新入生オリエンテーションを実施予定であったが、2020年度はオリエンテーション内容を文書にて行うこととなった。学生証、学生便覧等をともに履修指導等に関する文書を郵送し、4月下旬からWeb上で履修登録を行った。質疑応答等はメールあるいは電話等で個別に対応した。短期大学部教育の基本的理念、人材育成目的、学科の教育の特色や卒業までの履修計画などについては、後述の「ベーシックセミナー」の遠隔授業において、学生の理解度を確保予定である。

4. 初年次教育

1年次配当科目として基礎教育科目と専門教育科目を配置している。専門教育科目については、本学科が目指す人材養成の基本理念、学問体系を学生の入学当初に十分に享受する必要があることを踏まえ、専門基礎科目14科目、専門科目9科目を配置している。学生は3年間の学修の基礎となる専門基礎科目を1年次に学ぶことにより「人体の構造と機能」「歯・口腔の構造と機能」「疾病の成り立ち及び回復過程の促進」「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」に関する基礎知識および専門的な知識を身につけるとともに、歯科衛生士が「医療人」であることを理解する。また、専門科目の「歯科衛生学総論」および「臨床歯科総論」においては、学生が歯科衛生士および歯科医療従事者の責務を学ぶとともに、歯科衛生士の主要業務である「歯科予防処置」「歯科保健指導」「歯科診療補助」の各分野においては基礎を学び、口腔衛生の専門職として習得すべき能力を自己の目標として認識する。

令和元年度は、視聴覚教材を用いた教育方法を取り入れるとともに、主体的な学習力向上の観点からアクティブラーニングや課題解決学習方法などを導入した。基礎教育科目及び専門教育科目により、豊かな人間性と想像力に富む知性の涵養を図り、口腔保健領域における実践的活動に取り組むための基盤能力を育成した。実習科目においては、提出課題について学生がより深く考えるために繰り返し指導を行う、実技試験を実施して学生が一定レベルの技術に到達するまで繰り返し指導を行うなど、学生の理解度の深化を支援した。

1年次前期に配置した「ベーシックセミナー」においては、学生が専門教育科目に対応できるようにする基本的スキルや、時間管理や学習習慣などの自己管理能力を身につけ、卒業後に歯科衛生士として社会で活躍することを見通した計画を立てて充実した学生生活を送ることを目的とし、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を行う。また、専任教員との個別面談も交えて、クラス担任を中心とした学生支援体制を学生に明確に示し、学生の修学に関する不安を取り除き、学生が学ぶ目的を理解して授業に前向きに取り組めるよう支援している。

令和元年度の「ベーシックセミナー」では、学科の教育内容をより深く理解させることを踏まえ、講義科目、実習科目の履修に必要な知識や器材の取り扱い方法を学ぶとともに、歯科衛生及び健康に関連するテーマについてグループワークを行った。グループで選択したテーマについて調査し、ディスカッションを経てプレゼンテーション資料を作成、発表、質疑応答を行うことにより、情報を収集・整理・分析する方法やコミュニケーション力、プレゼンテーション技法など、学習の基盤となる能力を身につけるよう授業を展開した。また、学生全員を対象に、学科教員が個別面談を実施し、修学上の不安に関する支援や履修指導を行った。2年次においても、全学生と個別面談を行う時間を設け、適切な履修指導が行える体制を維持していく。

今後の課題は、学生が自主性をもってより積極的に学習に取り組む姿勢を身につけるための支援である。2020年度の「ベーシックセミナー」は遠隔授業となるが、同時双方向ツールも活用しながら、学生の理解と学習姿勢の向上を支援する。

5. 2年次教育

2年次配当科目として基礎教育科目と専門教育科目を配置している。基礎教育科目は「日本語表現」「ビジネスコミュニケーション」「キャリアデザイン」の3科目であり、本学既存の学科や本学のキャリアセンターと連携して、コミュニケーションスキルの向上とキャリアプランの構築を支援する。専門教育科目については、初年次に履修した専門基礎科目を学修の基礎とし、専門知識と技術を深めるとともに、歯科衛生士に今後ますます求められる急性期医療や地域包括ケアシステムにおける口腔ケアの必要性についても学ぶため、専門基礎科目1科目、専門科目15科目、専門発展科目1科目を配置している。専門科目の「臨床・臨地実習Ⅰ」においては、2年次前期までに修得した歯科衛生の知識と技術を統合するために、「歯科診療補助」「歯科予防処置」を中心に歯科医院において実習を行う。専門発展科目の「医療コミュニケーション学」では、本学と既設の目白大学保健医療学部言語聴覚学科及び看護学部看護学科の専任教員が授業を担当し、患者とのコミュニケーションのみならず、多職種連携の協働でのコミュニケーションの方法などを学ぶ。

令和元年度は、学内の講義・実習において学生の医療人としての姿勢と基礎的な知識・技術の習得を支援した。また、令和2年度後期からの学外実習の準備として、実習施設訪問、令和2年度実習施設の選定を行った。

6. 施設・設備の整備状況

実習室および関連施設の設置については、開設時までに完了している。実際の歯科診療室と同様の機材・環境で実習できる臨床歯科実習室、模型と診療機器を使用して基礎的な技術を身につける基礎歯科実習室においては、教員の実技映像がリアルタイムで学生の目の前のモニターに配信され、学生はクリアな映像を見ながら技術を習得することができる。また、実習で使用するX線実習室、実習準備室、石膏室のほか、ロッカー室、洗口室、コミュニケーションルームも設置し、学生が授業時以外も清潔保持に努めるとともに学生同士のコミュニケー

ションを深め、自主学習に取り組める環境を整備している。

その他、既存の学内施設として、目白大学新宿図書館においては図書閲覧・貸出、資料の検索等、メディアプラザ及びネットカフェにおいては、パソコンを使用して授業で使う資料の準備やレポートの作成を行うことが可能であり、学生にとって万全な学習環境が整っている。

2020年度前期は遠隔授業となるが、大学全体で学生のネット環境の調査を実施するとともに、学生に対し物的・質的な支援を計画、実施している。

これらのことから、設置の趣旨・目的については、令和2年5月1日時点としては、入学者の確保を今後重点的に改善すべき課題とし、その他においては当初の計画を概ね達成できていると言える。